

【p 12～p 17】 近松の里をめざして

1 資料活用にあたって

- 社会科の身近な地域や市町の古くから残る建造物、地域の人々が受けついできた文化財や年中行事の学習などに関連させると効果的である。

2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：ぼく（陽一）（子どもが「ぼく」になって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：ボランティアガイドのおじいさんの話
- 変化するところは：「ぼくはなんだかはずかしくなりました。」

3 読み物資料の素材について

【参考文献等】

- ・ NHKにんげん日本史「近松門左衛門」監修 酒寄雅志 著者 小西誠一、理論社、2004年

【参考URL】

- ・ 尼崎市（近松の里）
http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/manabu/chikamatu/055chikamatsu_sato.html
- 近松門左衛門について
 - ・ 「日本のシェークスピア」と評される近松門左衛門は、江戸時代に越前福井の武士の家に生まれたとされる。京都に移って公家に仕えながら人形浄瑠璃に興味を持ち、その後武士を捨てて芝居の脚本家として400以上の作品を書いたとされる。晩年は大阪に移り住み、尼崎をたびたび訪れては、執筆活動をしていたとされる。近松の生涯は謎の部分が多いが、亡くなる前に辞世の言葉をきかれたところ「私の作品が時世である。それが後のちの世まで伝わっていくならば。」と言ったとされている。
- 尼崎と近松門左衛門
 - ・ 近松は尼崎を気に入り、廣濟寺に作品を書くための部屋(近松部屋)を作った。多くの有名な作品がここで書かれたとされている。廣濟寺は近松の菩提寺とされ、近松の墓は国指定史跡となっている。
 - ・ 尼崎では、伝統文化の振興および近松の功績を後世に伝えるために、尼崎を近松の里として「近松記念館」や歌碑、モニュメントなどを市内に建て、近松文化のメッカとなることを目指している。
 - ・ 昭和11年から近松祭りが10月下旬に開かれ、人形浄瑠璃の講演などゆかりの芸能が上演されている。
 - ・ 市内の下坂部小学校には、浄瑠璃クラブがあり3年生以上の子どもたちが活動をしている。また、人形浄瑠璃の観賞会なども開かれている。同校は、近松祭りにも参加し発表会を開いたり、総合的な学習の時間で近松や人形浄瑠璃についての学習をしたりしている。
 - ・ 市が取り組む活動だけではなく、地域にもボランティアで近松の里を案内する「近松かたりべの会」がある。また、小学校での講演の実施や人形浄瑠璃体験、トライやる・ウィークでの中学生を受け入れなどの活動している「近松応援団」もある。

4 展開の具体例

近松の里をめざして

- ・主 題 名 ・ふるさとの自慢 C (16)
- ・資料の概要 ・ぼくは尼崎の自慢を調べるという宿題に、「別に自慢できるところなんてない」と思いながら、近松の里を訪れる。そこでボランティアガイドから、近松の里が尼崎の自慢として大切にされていることを教えられます。帰宅後、父に「大事なことを勉強した。」と言われたぼくは、尼崎のよさをみんなに伝えるために発表の下書きを始める。
- ・ね ら い ・ボランティアガイドのおじいさんの話を聞いて道徳的に変化するぼくを通して、地域の行事や活動に興味を持ち積極的にかかわろうとする道徳的实践意欲を養う。
- ・展開の具体例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ	自分たちの町の自慢は何ですか。
展 開	・資料の判読を聞きながら黙読をする。	
	・自慢できるところは無いと言った主人公の気持ちを考える。	「別に自慢できるところなんてないのに…」と言った時、ぼくはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・そんなこと今まで考えたこともないよ。 ・尼崎に自慢できる有名なものなんかないよ。
	・ボランティアのおじいさんの話を聞いた時の主人公の気持ちを考える。	ボランティアガイドのおじいさんから「近松門左衛門」や「近松の里」の話を聞いたぼくは、どうしてはずかしくなったのでしょうか。 ・「日本では知らない人はいない」と言われたから。 ・自分の町のことを知らないことがわかったから。 ・尼崎に自慢できるところなんてないと思っていたから。
	・発表の下書きを始めた時の主人公の気持ちを考える。	発表の下書きを始めたぼくは、どんなことを考え始めていたのでしょうか。 ・町みんなが尼崎のよさを大切にしているんだね。 ・自分も尼崎のよさを大切にしていきたい。 ・クラスみんなにも尼崎の自慢を教えてあげよう。
終 末	・感じたことを発表する。	感じたことを発表しましょう。

「自慢できるところなんてない」という言葉に着目させ、郷土の伝統や文化に対する主人公の意識が低いことをおさえる。

ボランティアガイドのおじいさんの話がきっかけとなり、郷土を誇りに思う意識が主人公に起こっていることをおさえる。

おじいさんから聞いた話を思い出し、郷土の文化を大切に、郷土を誇りに思う気持ちになっている主人公の心情の高まりをおさえる。